

を、みかどの御おとゝの早良親王東宮とておはせしが、人をつかはしていころさしめ給ひて
き略中 かくて十月に、東宮をおとくにでらにこめたてまつり給へりしに、十八日までその命
たえ給はざりしかば、あはぢの國へながしたてまつり給ひしに、山さぎにてうせさせ給ひに
き略中 同十九年七月己未、みかど思ふところありとのたまひて、前東宮早良親王を崇道天皇
と申、又井上内親王を皇太后とすべきよし仰られき、おのゝまさぬあとも、うらみの御心
をまづめたてまつらむとおぼしめしけるにこそ侍るめれ、

〔大鏡三左大臣師尹〕

世はじまりてのち、東宮位とりさげられ給ふ事は、八九代ばかりにやなりぬら
ん、なかに法師東宮おはしけるこそは、うせ給ひて後に贈太上天皇と申ていはひすゑられ給へ
ば、おほやけもまろしめして、しゆだう天皇とて、官物のはつをさきにたてまつらせ給ふめり、

〔日本後紀二十嵯峨〕

弘仁元年九月庚戌、廢皇太子高立中務卿諱和爲皇太弟、

〔紹運要略〕

廢太子、高岳親王平城子、後號眞如親王、大同四年四月日立坊、弘仁元年九月十二日廢之、出家渡唐、逆旅之間遷化、

〔水鏡下嵯峨〕

弘仁元年略中 九月に内侍のかみ子藥 太上天皇城平をすゝめたてまつりて、位にか

へりつきて、われ后にたゝんといふ事いできて、世中静ならずさゝめきあへりし程に、みかど
内侍のかみのつかさ位をとり給ひ、仲成子藥を土佐國へながしつかはすよし宣旨をくださ
せ給ひしに、略中 十一日に太上天皇いくさをおこして、ないしのかみとひとつ御こしにたて
まつりて、東國のかたへむかひ給ひしに、略中 大納言田村麻呂宰相綿麿をつかはして、そのみ
ちをさへぎりて、仲成をいころしてき、太上天皇すぢなくてかへり給ひて、御ぐしおろして入
道し給ひてき、御年三十七なり、内侍のかみみづから命をうしなひてき、おそろしかりし人の
心なり、太上天皇の御子の東宮高丘をすてたてまつりて、みかどの御おとゝの大伴親王とて、
淳和天皇のおはしましゝを、東宮にたて申させ給ひき、